

半島移住女子「ペンターン女子」

移住者がつくる新たなコミュニティと地域との絆

宮城県気仙沼市の北東部にある唐桑半島では、震災後に全国から女性たちが移住し、それぞれが生業を持ちながら生活している。彼女たちは、「ペンターン女子」を名乗り、日々の生活をブログやインスタグラムで発信し、地域の魅力を全国に届けている。

取組のPOINT

ヒト 住民のパワーに感化

着眼点 移住者目線で魅力を発信

連携・協働 地域住民と支え合う

持続性 地域とつながる

DATA

取組主体 半島移住女子「ペンターン女子」

取組内容 地域の魅力を発信

人物紹介

リーダー 根岸 えま (ねぎし えま)

東京都出身。2011年、立教大学在学中に震災ボランティアを通じて唐桑半島の住民との交流が始まる。2012年4月から大学を休学し移住。仲間と任意団体からくわ丸を立ち上げる。大学卒業後の2015年4月、再び移住。一般社団法人まるオフィスの設立に参加する。



ヒト 住民のパワーに感化

学生ボランティアがきっかけ

東日本大震災が発生した当時、根岸えまさんは都内の大学に通う学生だった。津波によって壊滅的な被害を受けた被災地の映像を見て、一つのまちが消える状況をこの目で確かめ、被災した人たちの力になりたいと思うようになった。

10月、学生ボランティアとして唐桑半島を訪れ、がれきの撤去などの活動を経験。5日間の滞在で知り合ったボランティア仲間や地域住民との交流はその後も続き、何度も訪れるたびに、地域の復興のために立ち上がろうとしている人たちのパワーに刺激を受けたという。

そこで、2012年4月から大学を休学し、唐桑半島で1年間移住生活を送ることにした。地域の文化や自然など、昔からあるものを地元住民と一緒に再評価し、地域の内外に発信するため、ボランティア仲間や地元有志と「からくわ丸」を立

ち上げた。具体的には、まち歩きマップの作成や地元郷土料理のレシピ化などを行った。

漁師の生き様にあこがれて

1年後に復学するため東京に戻り、大学卒業後の2015年に再び唐桑半島へ。からくわ丸のメンバーと共に一般社団法人まるオフィスの設立に参加した。

再移住後は、移住定住相談や移住者向けの空き家の確保などに取り組み、東京で開催した気仙沼に縁がある人を集めた交流会の企画にも携わり、「関係人口」の拡大に努めた。

また、観光客向けの漁業体験プログラムを行っていた際に、漁師からの「地元子どもたちにも魅力を教えたい」という声に応え、地元の中学生や高校生を対象とした漁師体験事業も開始し、力を注いだ。



自分らしいライフスタイルを求め集まったペンターン女子



気仙沼市最大の夏祭りで地元の若者と盛り上がる



ペンターン女子チームを結成し綱引き大会に参加

かつては遠洋マグロ漁業で栄え、気仙沼では多くの乗組員が世界の海で活躍していたが、今では漁師の仕事を知っている子どもは少なくなったという。そこで、漁師の仕事を次の世代に継承する手伝いをしたいとの思いで事業を始めた根岸さん。これまでの交流を通して知り合った漁師の生き方に憧れ、「カッコいい大人たちと一緒に働いていたい!」という強い思いが、移住生活のモチベーションにつながった。

着眼点

移住者目線で魅力を発信

住むことで実感した地域課題

「気仙沼の魅力は、よそ者を快く受け入れる文化があるところ」という。唐桑半島でも震災後に若い移住者が増え、その文化を十分実感することができたものの、その一方で、少子高齢化による人口減少や若者の流出、地域経済を支えてきた水産業や観光業の衰退など、地域が抱える課題も感じるようになった。

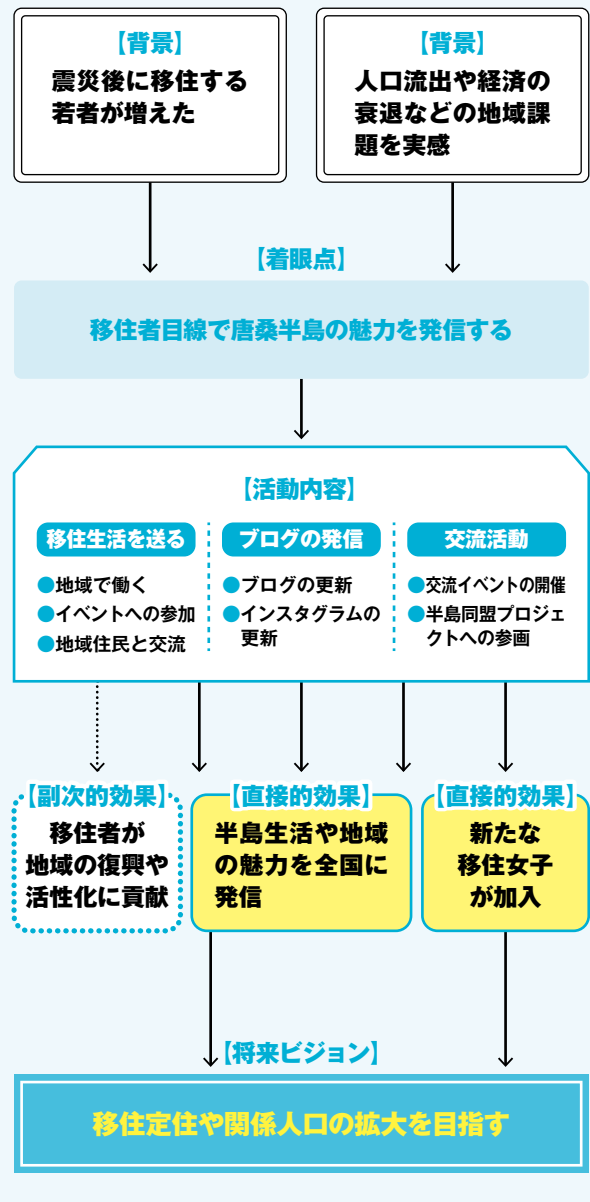
移住者の自分が、地域の豊かな暮らしを発信すれば、役に立つことがあるかもしれないと思い、唐桑半島に移住した女子仲間と一緒に「ペンターン女子」を結成。英語で半島を意味する「Peninsula」と移住を意味する「Iターン」を合わせた名前を付けた。

2016年8月にはブログを開設。日々の生活でメンバーが感じたことや出会った人などを、画像と共に紹介している。通称「唐桑御殿」と呼ばれる遠洋マグロ漁業の乗組員が建てた伝統的な古民家をシェアハウスするメンバーを中心に、移住者ならではの客観的な視点で半島の豊かなライフスタイルを伝えている。

半島で自分らしく生きる

現在のメンバーは14人。ブログ発信や首都圏での交流イベントで知り合った女性、まるオフィスが実施した移住支援事業やインターンシップなどに参加した女性たちだ。

移住者がつくる 新たなコミュニティと地域との絆



漁師への憧れ、自給自足の生活の実現、とにかく新しいことに挑戦したいなど、出身地も移住の動機も違うメンバーが、自分たちで仕事や生き方を見つけ、地域の人や自然と関りながら生活を送る。気仙沼で起業する人、地元企業に就職する人、地元の男性と結婚して子育てする人など、生き方もさまざまである。

中には、初めから期間を限定して移住生活をスタートさせる人もいる。共通するのは、ここの海と人が好きだということ。それぞれのメンバーが生き方を見つけ、豊かな自然と心温かい人々に関わりながら充実した日常が繰り返されている。

「まちの原風景や住民の力強さを、ブログやインスタグラムを通して多く人に向けて発信することを心掛けている」と根岸さんは語った。

地域住民と信頼関係を築く

こうした取組は、まるオフィスがプロデュースし、移住を希望する女性の受け入れや住居や仕事を見つけるサポート、地域住民への紹介などを通して移住者をバックアップしている。

メンバーが住民と共に生き生きと暮らす様子は、ブログのいたる所で見ることができる。夏祭りでの出店や綱引き大会への参加、野菜の産直市を手伝うなど、半島生活を送る当事者となることで、メンバーが発信する人や土地の魅力は多くの共感を集めた。住民も地域の一員として受け入れ、信頼関係が生まれている。

アパートなどの賃貸物件が少ないことから、住まい探しも住民の協力が頼りになった。住まなくなってからも管理が行き届いている家が多く、地域住民の仲介で移住者に貸してくれるケースも少なくないという。根岸さんがメンバーとシェアハウスする一軒家も仲介によるもの。持ち主の好意で水回りやキッチンが新調され、壁など一部はDIYも許されている。

全国のペンターン女子と連携

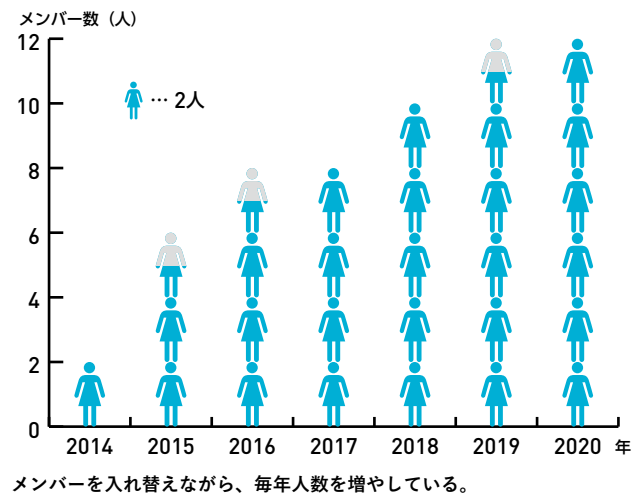
2019年6月、尾崎半島（岩手県釜石市）、能登半島（石川県七尾市）、大隅半島（鹿児島県）に住むペンターン女子たち「半島同盟」を結成した。首都圏で食に関するイベント

を開催したり、おススメの特産品をオンラインショップで販売したり、協力して全国に半島の暮らしや魅力を発信している。オンライン販売では、コロナ禍の影響で苦境に立たされている地域の生産者の商品も扱う支援活動も行った。

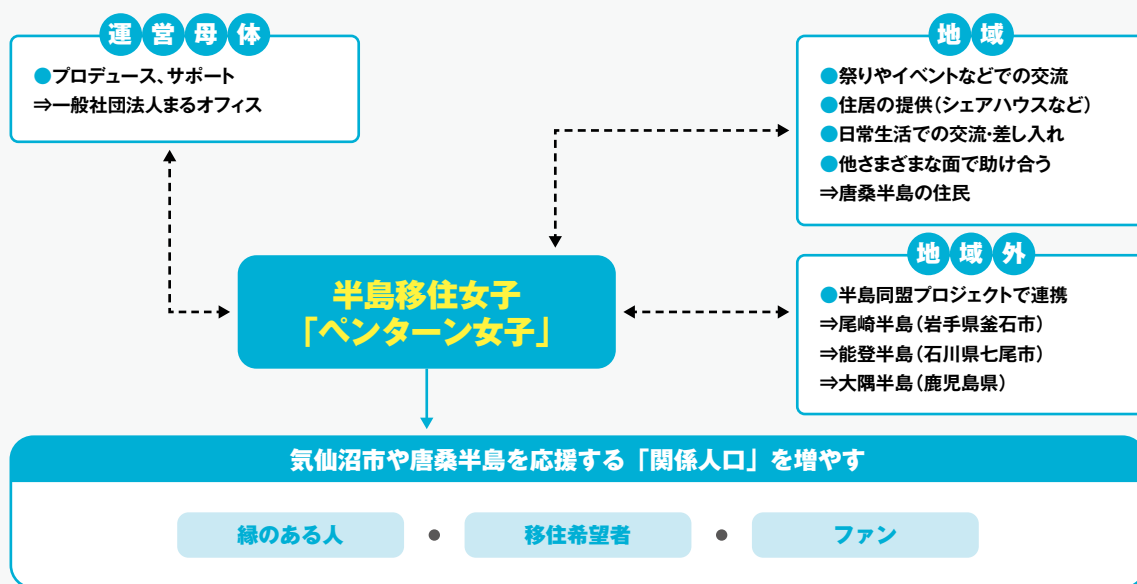
2020年には、オンライン飲み会「ペンターン女子ナイト」を実施。それぞれのペンターン女子が週替わりで担当し、1回目は唐桑チームがクイズやトークでイベントを盛り上げた。

「全国にはたくさんの半島があり、ペンターン女子も住んでいるはず。ネットワークを広げて、多くの女子の力で盛り上げていきたい」と根岸さんは語った。

■ ペンターン女子のメンバー数の推移（2020年11月現在）



- 1 造船所に就職したメンバーが作業の様子を発信
- 2 中学生が地元の伝統文化を学ぶ様子
- 3 豊かで美しい海の風景
- 4 移住先での子育ての様子も発信



持続性

地域とつながる

卒業後も続く交流

グループを維持するために意識していることは、地域住民にメンバーを積極的に紹介することだという。決して移住者だけで固まることなく、地域とつながり住民にかわいがられることが、定着の一步だと考えているからである。

2016年のグループ結成から4年。これまで何人かのメンバーが卒業していったが、その後も交流は続いており、東京で行われる交流イベントのサポートに駆けつけたり、定期的な唐桑を訪れたりしている。唐桑半島は、移住生活を卒業してもなお、大切な故郷になっていた。

「新しい東北」復興・創生顕彰の受賞は、地域からも祝福を受け、集落のおばあちゃんたちが、お祝い会を開いてくれた。「顕彰の受賞によって、地域に笑顔を届けられたことはとてもうれしい。これからも大好きな人たちを笑顔にしたい」と誓った。今後もメンバーと共に、等身大のライフスタイルを全国に届けていく。

この土地と人が好き

漁師の生き様に憧れ唐桑半島に移住した根岸さんは、2019年に一つの夢を叶えた。

魚市場に隣接する「みしおね横丁」の一角に「鶴亀の湯・鶴亀食堂」をオープンさせ、気仙沼に入港した漁師をもてなしている。

鶴亀の湯の開業は、震災を乗り越え港周辺に残った唯一の

銭湯が、防波堤建設のため廃業したことがきっかけだった。

水揚げを終えた漁師が汗を流し、束の間の休息を過ごす大切な場所を復活させようと、地元の女性経営者たちと共に銭湯の復活に立ち上がり、クラウドファンディングなどで資金を調達。「大好きな漁師が集まる場所。天職に巡り合うことができた」と笑顔をみせた。

「10年後も唐桑半島で生活しているかどうかは正直分からないが、この地域と人が好きだということは、これからも変わらない自信がある」と根岸さん。半島生活と出会えた幸せを嘯みしめながら、これからもさまざまな挑戦を続けていく。

本事例の問い合わせ先

一般社団法人まるオフィス

宮城県気仙沼市唐桑町宿浦232-2

E-mail : info@maru-office.com

HP : <https://maru-office.com>

<http://pen-turn.com>

※ペンターン女子ブログ

宮城県気仙沼市への移住・定住サポートをはじめ、唐桑地区を中心に中高生向けの地域人材育成事業などを展開。「ペンターン女子」のプロデュースも担う。

